

ディスク構成の確認

lsblk

もしインストールされていない場合は

```
yum install util-linux-ng
```

■使い方

```
lsblk
NAME            MAJ:MIN RM  SIZE RO TYPE MOUNTPOINT
sda
├─ sda1          8:1   0   500M 0 part /boot
├─ sda2          8:2   0  31.5G 0 part
├─ centos-swap   253:0   0   3.2G 0 lvm  [SWAP]
└─ centos-root   253:1   0  28.3G 0 lvm  /
sr0             11:0   1 1024M 0 rom
```

UUID や LABEL、ファイルシステムも表示するには -f オプションを使う

```
lsblk -f
NAME            FSTYPE    LABEL        UUID                                 MOUNTPOINT
sda
├─ sda1          vfat       TEST         1133-0993                               /boot/efi
├─ sda2          xfs        7926f3f0-9699-40ec-afda-8a50c307a288 /boot
├─ sda3          LVM2_member x0mY8Z-dv0f-KyWR-kTGf-zYQX-rLLx-ctsL1E
├─ centos-root   xfs        64c3c21f-8d85-4c00-a393-2518cda5918b /
└─ centos-swap   swap       f9561d52-43d1-47be-bb0d-a0c8c1107a6b [SWAP]
```

ディスク、パーティション情報の確認

parted を使う。

```
parted -l
```

または、

```
parted /dev/sda
(parted) p
モデル: VMware, VMware Virtual S (scsi)
ディスク /dev/sda: 34.4GB
セクタサイズ (論理 / 物理): 512B/512B
パーティションテーブル: msdos
ディスクフラグ:

番号 開始    終了    サイズ  タイプ  ファイルシステム  フラグ
  1   1049kB  525MB   524MB  primary xfs                boot
  2   525MB  34.4GB  33.8GB  primary lvm
```

■パーティションテーブルの情報について

主なもの

msdos(MBR)

基本領域 (Primary) と拡張領域 (extended) から構成される。拡張領域内には論理領域 (logical) を作成する。基本領域は最大 4 つまで作成できる。拡張領域は 1 つだけ作成できる。拡張領域内に作成する論理領域には作成できる数に制限はない。2TB 以上の領域は作成できない。

GPT

MBR に変わる新しい管理方式。2TB 以上のパーティションが扱える新しいパーティションテーブル。

loop

パーティションテーブルを使わない方式。 `mkfs -t ext4 /dev/sda` などのようにデバイスをものをフォーマットするこの方式になる。仮想マシンなどでこの方式を使うとボリュームサイズの変更が比較的容易に行える。

■ パーティションテーブル情報の変更

(parted) `mklabel` パーティションの種類

パーティションの種類は、 `gpt` や `loop`、`msdos` などが指定できる。